

〔古今和歌集十名〕をみなへし

ともりの

白露を玉にぬくとやさ、がにの花にも葉にもいとをみなへし

〔本朝文粹雜言詩一〕詠女郎花

源順

花色如蒸粟、俗呼爲女郎、聞名試欲契偕老、恐惡去聲衰翁首似霜

〔十訓抄二〕野宮歌合判者は源順なりけり、女房をあまたかたせければ、男方より、

霜枯の翁草とは名のれ共女郎花には猶なびきけり、となんいひたりける、是は

花色如蒸粟、俗呼爲女郎、聞名戲欲契偕老、恐惡衰翁首似霜と、順がかけるによりてよめるにや、

いと面白し、同難なれども、やさしくおぼゆかし、

〔紫式部日記〕わた殿の戸ぐちのつぼねにみいだせば、ほのうちきりたる、あしたの露もまだおち

ぬに、殿道長藤原ありかせ給て、みずいじんめして、やり水はらはせ給ふ、はしのみなみなるをみな

へしの、いみじうさかりなるを、一枝をらせ給ひて、木丁のかみよりさしのぞかせ給へり、

〔枕草子三〕草の花は

をみなへし

〔明月記〕寛喜元年六月十九日乙卯今年草樹花實皆遲、黃梅猶纔殘、昨今初開蟬聲、但菼女郎之中有

纔開花是只自然事歟、

〔武江産物志藥草〕道灌山ノ産

白花敗醬をどめし

落合邊

敗醬をどめし同上○  
藤ノ森

〔本草和名米穀九〕胡麻

陶景注曰本出大宛故名胡麻

一名狗虱、一名方莖、一名鴻臚、楊玄操音松羊反、已上本條

一名莫如、一名三光

之遺榮、一名古地之更生、一名流朱、一名九變、一名幽昌、一名合腴、已上七名、出大清經、一名玄秋之沆靈、出大經

〔倭名類聚抄麻十七〕胡麻

陶隱居本草注云

胡麻音五萬、詠云、古末

本出大宛、故以名之、

〔箋注倭名類聚抄稻穀九〕按胡麻載在本草經、恐非本出大宛、蓋胡之言鳥也、以其色黑有是名、本草圖

胡麻  
名稱